**前回以降の変更について**

* **元々孤島設定だった過去ラクアを、半島の端の岬に変更しました。現代ラクアは変わらず海に沈みシールドに守られた竜宮城的な空間としています。**
* **18タイプのポケモンをめぐる縦軸を、ラクアを救った6匹の英雄的なポケモンを巡りカメが力を取り戻していく話に変更しています。英雄的なポケモンは実は6匹ではなく、9匹存在した、のような物語的なツイストも想定しています。**
* **過去ラクアの崩壊に関わるエルドラの行動と出来事を整理しました。**
* **主な加筆箇所（赤字部分）を中心にご確認いただけますでしょうか。**

**新アニポケ・設定まわり**

2022.08.05　松澤くれは

**主人公・リコの設定補足**

**●リコの学校の場所（物語のスタート地点）**

カントー地方のセキエイ高原

　……街から離れた自然あふれる高原に位置する、ポケモンリーグが運営する全寮制の学校

　　　ポケモンリーグを目指す生徒が多いため、リコの同級生たちもバトルに熱中している

※参考イメージ：ハロウインターナショナルスクール安比ジャパン（ハロウ安比校）

**●トレーナーとしての成長について**

**１．憧れスタート**

自分の目で世界を見て、経験と見識を深め、様々な人に出会い、次第に「自分らしく生きたい」と気持ちが変化していく。

世界にトレーナーは数いれど、ニャオハやコダイカメたちにとってのパートナーはリコしかいない。オンリーワンの絆を胸に、ポケモンとともに逞しく成長していく。

**２．カメの力を取り戻すために育てるという成長軸**

コダイカメは、ルシアスが今も生きていると信じており、ラクアに戻りたがっている。

しかし宝石状態から蘇ったばかりのカメは、テラスタルエネルギーを失っている。シールドを展開して防御するのが精いっぱい。ラクアに辿り着くには、すべての力を取り戻してカメが完全体にならなければいけない。リコはカメをラクアに連れて行ってあげると決意し、トレーナーとして育てていく。

ディフェンスだけではなく、オフェンスを教えていくのがリコの育て方。→「大切なものを守るために自身を鍛え、自らの力で戦っていく」ことを学ぶリコ自身の成長とシンクロ。

タイプマスターのようなジムリーダーと修行したり、強力なトレーナーとバトルしたりと、リコは英雄ポケモン（仮）に認められるために研鑽を積んで、強くなっていく。

**３．なぜトレーナーとして強くなりたいのか**

コダイカメを自分が守りたい、育てたい、ラクアに連れていきたい。自分のやりたいことを叶えるためには自発的な行動が必要で、そのための努力をする。男児の「強くなりたい」とは異なる、女児に向けた「この子を育てたい」を軸足にする。

**幻の楽園・ラクア**

**●基本設定**

・人が簡単には辿り着けない場所にある「天然のポケモンセンター」。生命エネルギーに満ちており、訪れたポケモンたちの傷が癒える。自然豊かで、不老長寿のきのみなども生っている。様々な地方のポケモンが集まり、伝説のポケモンすらも滞在するらしい

・多様なポケモンたちのためにある、豊かで、かけがえのない楽園

・かつては海岸に張り出した陸続きの岬（半島の先端部分）だった。

・現在は海底深くにあり、海底神殿のような佇まいになっている（リコたちが竜宮城を訪れるようなイメージ）

・かつてラクアには、「調停者（黒いレックウザ）」と「監視者（白いジガルデ）」がいて、長きにわたってラクアを見守っていた

・人間が訪れたことはなく、ルシアスたちを除いて誰も辿り着けなかった。ラクアの手前にはジガルデの監視する森があり、強力なポケモンが威嚇して人間は追い返されるか、エスパータイプのポケモンの力で迷わされてしまう。海からのアクセスも、レックウザが周辺海域の天候を荒らしており、簡単には近づけない（ルシアスたちは船で嵐のなかを進み、カメがレックウザとバトルして認められることでラクアに行けた、などを検討）

・ラクアを自分だけのものにしようと目論んだエルドラは、「白いジガルデ」を手中におさめる。しかしジガルデは暴走し、レックウザとの激しいバトルによってラクアの大地が傷つき、崩壊の危機に陥ってしまう

・ルシアスはコダイカメとともに、手持ちポケモン6匹（のちに語り継がれる「ルシアスの六英雄」）と力を合わせてラクアを守った。エネルギーシールドで護られたまま、ラクアは海底に沈み、100年のあいだ人間が訪れていない（沈んだことまでは伝承として語られておらず、リコたちが辿り着くときの最後の謎解きポイントになる）

・実は力を合わせたポケモンは六英雄のほかにプラス3匹いて、ルシアスの妻やエルドラの手持ちポケモン、そして「白いジガルデ」だったことが、リコたちの旅の途中で明らかになる

・100年経った今でも、ラクアはシールドで護られ、ポケモンたちが平和に暮らしている。しかし、かつてほどのパワーはなく、生命エネルギーは徐々に減っていく現状にある？

・取り残されたルシアスは死んだと思われていたが、実は生きており、リコが辿り着いたときにカメと再会し、その魂が解放されて消えていく

※ラクアの面積、形状などを含めた規模感については、今後の検討事項

（岬、半島、地下大空洞、モンサンミッシェル型、など）

●ラクアの成り立ちについて

【A案】「調停者・監視者」パターン

この地で最期を迎えたポケモンたちの亡骸（あるいは化石）が堆積し、そのエネルギーが地中に染み出したことで、芳醇な生命エネルギーを有する特別な土壌が形成された。古来より多くのポケモンが平和に暮らし、たくさんの新たな命を育む場所となる（豊かな生命サイクルが形成された土地）。

豊かになるにつれて、ポケモンたちの争いが生まれた。それらを鎮めるために、「調停者（黒いレックウザ）」と「監視者（白いジガルデ）」がやってくる。ラクアはさらに平和な楽園となっていった。

【B案】「創生」パターン

古来、とある大陸の大地は干上がり、段々と荒れていった結果、住んでいたポケモンたちは最果ての半島にまで追い詰められる。ポケモンたちは少ない住処と食べ物をめぐって対立を深めるが、それらを救ったのが「黒いレックウザ」と「白いジガルデ」であった。地下に眠ったグラードンなどの強力な伝説ポケモンの亡骸（化石）に残ったエネルギーをもとに、一帯を豊かな土地へと創生する。それ以来、遥か上空では大気のエネルギーを司るレックウザが、ラクアの地中深くでは大地のエネルギーを司るジガルデが、ラクアを見守っていた。ラクアには多くのポケモンたちが訪れるようになり、生命エネルギーに満ちた、豊かな場所となっていった。

【B´案】「創成」パターン

古来、とある大陸の大地は干上がり、段々と荒れていった結果、住んでいたポケモンたちは最果ての半島にまで追い詰められる。そこにはわずかな食料と泉しか存在しなかったが、それらを救ったのが「黒いレックウザ」と「白いジガルデ」であった。2匹のポケモンによってポケモン達は食べ物を奪い合うこともなく、厳しい天候にさらされることもなく、豊かな環境を作り上げ、ラクアには伝説のポケモンを含む多くのポケモンたちが訪れるようになり、ポケモンのふしぎなエネルギー（生命エネルギー）に満ちた、豊かな場所となっていった。

**●黒いレックウザと白いジガルデについて**

・**黒いレックウザ**……遥か上空からラクアを見守っていた。エアロックによって天候をコントロールして、豊かな自然環境に整える。ポケモンたちの調停者として、争いが起こらないようにしていた

・**白いジガルデ**……地中深くからラクアを見守っていた。グランドフォースによって大地に染み込んだ生命エネルギーを増幅させる。秩序ポケモン・生態系の監視者として、ラクアで暮らすポケモンたちにエネルギーを行きわたらせる役割を果たしていた

・この2匹は対になる存在であり、モチーフは中国の陰陽や、ウロボロスの円環など

・レシラムとゼクロムではない、新しい白と黒のアニメオリジナル設定感をイメージ

・レックウザ（ドラゴンひこう）とジガルデ（ドラゴンじめん）の盛り上がるバトルを想定

・エルドラの起こした事件によって、ジガルデは100体に分離して飛び散った。現代においては完全体ではない（エルドラが10％の状態で持っている、などを検討）

**アニメ版のコダイカメと、六英雄ポケモン**

**●コダイカメ**

・100年前にアトランティスで蘇った。その時、「初代レジェンズ」を率いて冒険中のルシアスと出会い、ともに旅をするなかで、カメはルシアスと絆を深めていく

・カメは非常に知性が高く、ルシアスたちと対等な関係で、人間と同じ「冒険仲間」という位置づけだった（ルシアスはカメを正式にゲットしているわけではない）

・カメはルシアスたちとラクアに辿り着く。だが、エルドラの起こした事件のせいでラクアは危機に陥る。カメは力を合わせた9匹のポケモンたちにテラスタルエネルギーを分け与え、パワーを増幅させることでラクア全体にエネルギーシールドを張って、ラクアを守った

・事態の収束後、カメは力を使い切って宝石化した。ルシアスはラクアに閉じ込められたまま消息を絶ち、宝石はルシアスの妻に託される。そして100年後の現在、宝石はルシアスの子孫であるリコに受け継がれ、カメのフォルムに戻った

・100年後にカメが宝石状態から動物フォルムに戻ったのは、リコの危機に反応して守ろうとしたから

・リコのパートナーになったカメは、最初はかなり弱い状態。本来の力を取り戻すためには、六英雄とバトルして、テラスタルエネルギーを取り戻す必要がある

・カメは六英雄たちと再会していくなかで、本来の力を取り戻すだけでなく、昔の記憶やルシアスとの絆も思い出していく。この物語は、カメにとっては100年の時をこえた「大切な想いを取り戻す」冒険の旅でもある

・カメは今もルシアスが生きていると信じて、ラクアに行きたがる。リコはカメの願いをかなえたい

**●六英雄ポケモン（本当は九英雄）**

・ラクアを守るために力を合わせた、ルシアスの6匹の手持ちポケモン

　……【仮】エンテイ、ラプラス、ガラルファイヤー、ブリムオン、ゼラオラ、黒いレックウザ

　※カメは六英雄に含まない。また、レックウザだけはラクアに辿り着いてからゲットしている

・さらにルシアスの妻のエルフーン、エルドラの「オカクジラ」、白いジガルデの3匹を合わせた、計9匹がいる

・ラクアに満ちていた生命エネルギーの影響を強く受けて長寿となり、今も生きている

・ポケモンたちは、カメの持つテラスタルエネルギーを分かちあっており、宝化ができる

・ポケモンたちの考え方は様々。カメに恩を感じているので力をすぐに返してくれる子、弱体化したカメを見たことですぐには返さない子、パワーが暴走して狂暴化してしまう子、力を試すことで昔の友情を思い出す子など、100年の時間経過の重みによって生じた多様なキャラクター性とドラマがある

・ほとんどは野生ポケモンとして生活しているが、すでに他のトレーナーにゲットされていたり、エルドラやエクスプローラーズの幹部が繰り出したりする場合もある

・第6話でカメとレックウザが再会したことで、世界中に散らばる9匹の宝化パワーがシンクロニシティ的に覚醒する。ヌシ化した英雄ポケモンの目撃情報をもとに、リコたちは彼らを追っていく（そのポケモンたちを救うことにもつながる）

・最初にリコが知るルシアスの伝承では「六英雄」だが、各地方で語り継がれる伝承の内容がずれており、のちに隠された3匹の存在が明らかになる（謎解き要素）

・エルドラは自分のポケモンがルシアスに協力したことが認められず、その事実を隠してきた？

**●六英雄のゲットについて**

・レイはレックウザをゲット（継承）し、ほかの英雄ポケモンも同じくレイがゲットするか、フリードや引きこもりの子が継承するのもあり。仲間たちで分散してゲットすれば、初代レジェンズ（ルシアスたち）と、フリード率いるレジェンズとの世代交代シンクロ感が出る

・英雄の1匹をライバルがゲットしてしまうが、後にライバルごとにレジェンズの仲間になるのもあり

・今もおばあちゃんやエルドラが持つ「＋α」が存在する（ほかのキャラクターに広げることも可能）

・フリードの裏切り。すべて揃ったのにすべてを一人で持ち去ってしまう？（※理由付け必要）

・現代に所有者がいる場合は、ゲットするのではなく、そのトレーナーがレジェンズに加入して仲間になったり、カメとポケモンの友情で一時的についてきてくれたり（預かる）など、さまざま

**冒険の流れの一例**

・英雄ポケモンの目撃情報を追って、各地方に向かう

（あるいは絵解き要素として、浮かび上がるビジョンなどでヒントが見えるパターンもあり）

　　↓

・手がかりを尋ねたり、話を聞いたり。協力的な人や、ルシアスの伝説に関わりたくない人など、考え方もさまざま。弱点タイプを修練するためのジムバトルや、空中戦に強くなるためにスカイバトルなどを行い、対策を練る

　　↓

・英雄ポケモンとのバトル。ほとんどは野生化しているが、トレーナー戦の場合もある。バトルに勝つと認められて、カメはテラスタルエネルギーを取り戻す。バトル後、基本は誰かの手持ちポケモンになる

**フリードの立ち位置（研究者としてフリードは何を目指しているのか？）**

・まだ見ぬポケモンとの出会いを夢見て、仲間たちとともに旅をしている。「移動式ポケモン研究室」である飛行船で世界中を回る。ルシアスの伝承から「ラクア」の存在を知り、自分たちも「レジェンズ」と名乗り、調査のためにラクアに辿り着きたい

・「戦うポケモン博士」の異名を持ち、トレーナーとしての実力は底知れず。だが、カメを育てたいと願うリコや、英雄ポケモンをゲットしたいというレイに理解を示し、子どもたちの成長を見守っていく。ピカチュウに特訓をさせ、敵トレーナーと戦わせることで経験を積ませるが、本気のピンチのときはフリード自身もバトルする

・レジェンズ図鑑（仮）…レジェンズメンバーの証として渡される特別な図鑑。チームのマーク入り。

従来の図鑑とは違い、中のデータが共有されており、すべての図鑑がリンクしている。仲間みんなで作る「友情のポケモン図鑑」

**エルドラについての設定補足**

・初代レジェンズ時代、エルドラはルシアスに憧れを抱いていた

・ルシアスの妻に対して恋愛感情はない。「旅についてきたのが疎ましい」くらいに思っている？

・ラクアに辿り着いたとき、エルドラはルシアスを裏切ったが、結果的にはルシアスに命を救われたことになる。それによってさらにコンプレックスをこじらせてしまった

・現代におけるエルドラの動機は、個人的な私怨（ルシアスをこえたい、ルシアスのような英雄になりたかった）などを想定

（以下、たたき台の一案です）

・エルドラは、自らがラクアの強力な生命エネルギーを浴びることで不老不死になり、自分とそのポケモンたちが永遠に一緒に暮らす「自分だけの楽園」に執着していた。トレーナーとポケモンとの出会いや別れの一切を拒絶し、永遠にパートナーポケモンと生きるという「偽りの楽園観」にとり憑かれていった。

・あるいは、ラクアに住むポケモンたちを追い出し、生命エネルギーを独占。楽園・ラクアの支配者として君臨しようと目論んだ、など

・心の底ではルシアスとわかりあいたいが、本人は気づいていない（感情に蓋をしている）

**ストーリー構成の一案**

**●前提としての狙い**

・主人公のリコが、カメとともにラクアを目指す理由を明確に示す

・リコの成長過程をわかりやすく描写して、視聴者に提示する

・トレジャーハンターというファンタジー要素を、過去の物語上に残す

・リコ＆レイのW主人公ではなく、女子主人公リコの物語であることを強化する

**●レジェンズの目的**

リコ　　　　→コダイカメの力を取り戻しながら、カメのためにラクアを目指す

レイ　　　　→レックウザをゲットしたい（六英雄に会いたい）

フリード　　→まだ見ぬポケモンに出会うために、ラクアを調査したい

引きこもり　→？？？

**●本編第1話までの流れ（エピソード0）**

今から100年前。伝説のポケモンすらも従える凄腕トレーナー・ルシアスと、その妻、エルドラの3人は「レジェンズ」（初代）と称して、幻の楽園ラクアを目指して冒険していた。ルシアスはアトランティスで、蘇ったばかりのコダイカメと出会う。ともに旅をするなかで両者は絆を深めていく。ルシアスの手持ちポケモン5匹とカメの力で、ルシアスたちはラクアへと辿り着いた。

そこは生命エネルギーに満ち溢れた秘境の地。さまざまなポケモンが傷を癒しに訪れて、伝説のポケモンまでやってきている。そしてラクアには、調停者≪黒いレックウザ≫と監視者≪白いジガルデ≫がいた。2匹が対となってラクアを見守ることで、この地は人間に荒らされることなく、豊かな楽園として保たれていた。ここはポケモンたちのための場所であり、人間は踏み入らないほうがいいと考えたルシアスは、ラクアを出ることを決意する。ルシアスの妻は納得したが、エルドラは「何のために苦労してここまで来たと思っている」と猛反対。彼はラクアを自分だけのものにしようと狙っていた。出立の日、ルシアスを裏切ったエルドラは、ジガルデを手中におさめてしまう。しかし完全にコントロールすることはできず、怒りに任せて暴走をはじめるジガルデ。レックウザはルシアスをパートナーに選び、ジガルデを鎮めるためにバトルするが、両者の激しいぶつかり合いでラクアの大地には亀裂が入り、陸地から切り離されて崩壊の危機に陥った。

　ルシアスたちは勝利し、エルドラの野望は阻止できたが、依然としてラクアの崩壊は止まらない。このままではポケモンたちにとってかけがえのない楽園が失われてしまう。カメはテラスタルエネルギーを使って、分離して海に浮いた岬全体にシールドを張ろうとする。しかしパワーが足りない。すると、ルシアスの手持ちであるほかの5匹のポケモンや、ルシアスの妻のポケモン、エルドラのポケモン、そしてジガルデまでもが協力しようと団結した。カメはその9匹のポケモンにテラスタルエネルギーを分けあたえ、ポケモンたちの力を最大限まで引き出してパワーを増幅、みんなの力でラクアを球体状のエネルギーシールドで包みこむ。ルシアスはラクアを崩壊から守った。

それが妻とエルドラの見た、最後のラクアの景色だった。ルシアスはシールドのなかに閉じ込められてしまう（カメと9匹のポケモンは、バリアを形成する際に島を外側から取り囲むかたちで陣形をとっている）。パワーを使い切ったカメは宝石化し、船で待機していた妻のもとに。レックウザたち6匹はルシアスがボールに戻したものの、海に落ちて、そのまま流されてしまう（※ルシアスはシールド内にいるので、シールド完成後にどうやってボールに戻したのかは要検討）。

安全なところまで辿り着いた妻は、ルシアスを助け出そうと捜索に出るが、ラクアは忽然と姿を消してしまった（実はラクアは、エネルギーシールドの重みで海底に沈んでいった。結果として、ラクアは人間が見つけられないところに隠された）。カメの宝石はルシアスの娘（=リコにとってのおばあちゃん）に受け継がれる。「初代レジェンズ」の名は後世に広まり、ルシアスの英雄譚として様々に語り継がれた。今や真実を知るのはおばあちゃんのみ。エルドラの行方を知る者はいない。

海に落ちた6個のボールは長い年月をかけて漂流を続け、様々な地方へと流れ着いていく。そのうちの一つはカントー沖合の島に流れ着き、村長によって拾われる。村長を慕っていた少年・レイは、ルシアスの伝説と同じ模様のボールを見て、これはルシアスのボールだと信じて持ち続けた。

ルシアスの子孫である少女・リコのもとで、カメは眠りから目覚めた。ルシアスのいたラクアに戻りたがっているカメを、リコはラクアに送り届けようと決意する。六英雄たちを訪ね、カメの失ったテラスタルエネルギーと記憶を取り戻し、フリードたち「レジェンズ」とともにラクアを目指す。

一方、エルドラは生きておりエクシードを発足、社会的な成功をおさめた。素顔を隠して会長として君臨しているが、再びラクアを目指すためにコダイカメの奪取を目論む。直属の組織・エクスプローラーズを差し向けて、リコたちのもとに迫る。

以上